

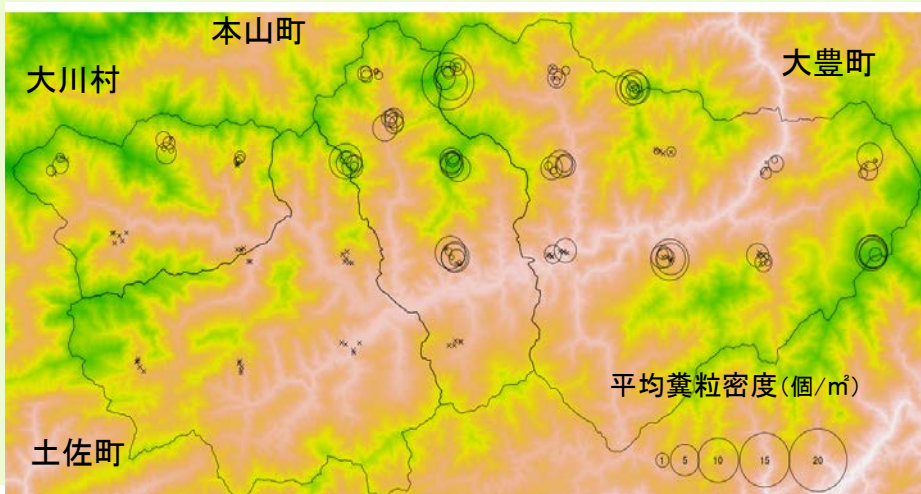
嶺北地域におけるニホンジカの 生息密度の予測

目的 ニホンジカの糞粒密度と環境要因(傾斜, 土地利用等)の関係を明らかにし, 生息密度指標の予測図を作成するために, 高知県の嶺北地域(大豊町, 本山町, 土佐町, 大川村)において, 糞粒調査を実施しました。

方法 1. 嶺北地域全域に設置した25個の調査区で, 糞粒数を計測(各区の調査面積:209 m²)
2. 階層モデルで糞粒密度を解析
3. プログラムFunryu Ver 1.2(岩本ほか 2000)とメッシュ気候値2010(気象庁)を用いて生息密度指標を推定

結果 本山・大豊町の町境(工石山)から白髪山, きびす山にかけて, 大豊町と香美市の境界で, シカの高密度地域が存在することが分かりました。

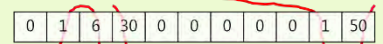
各調査区の平均糞粒密度(計測値)



シカの糞粒の計数



糞粒密度のモデル化



1. 調査枠で糞粒が観察される確率とある傾斜のもとで期待される糞粒密度を推定
2. その結果をもとに, プログラムFunryu Ver 1.2とメッシュ気候値2010を用いて生息密度指標を推定

嶺北地域における生息密度指標(頭/km²)の推定値

